

行政視察報告書

令和7年7月31日

長浜市議会議長 高山 亨様

長浜市議会議員

藤井 登

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 北海道行政視察
2. 視察期間 令和7年7月14日(月)～7月16日(水)
3. 視察場所及び目的

- ①北海道小樽市・ライトアップによる観光地の魅力向上について
- ②北海道札幌市北海道がんセンター・放射線治療の現状と展望について
- ③北海道函館市縄文文化交流センター・博物館の展示と運営について
- ④北海道函館市役所・観光を通じた地域経済の活性化と持続可能な体制づくりについて

4-①調査内容感想等

- ①北海道小樽市・ライトアップによる観光地の魅力向上について

・視察目的

近年、夜間のライトアップや景観整備によって観光地の魅力を高め、滞在時間の延長や観光消費額の増加につなげる取組が全国で注目されています。長浜市においても観光振興やインバウンド対応が課題となる中、先進的な事例である小樽運河の取組を視察し、今後の施策の参考とするため訪問しました。





・視察内容

小樽運河では、歴史的な倉庫群を活かしたライトアップが実施されており、平日の月曜日にもかかわらず、国内外から多くの観光客が訪れていました。現地に午後 8 時まで滞在しましたが、夜間も大変賑わっており、25 年前に訪れた人の話では「当時は想像もできなかった活気」とのことでした。

特に印象的だったのは、ただ同然の価値と見なされていた倉庫が、整備により観光資源として大きな経済効果を生んでいる点です。

また、案内体制も整っており、日本語・英語・中国語・韓国語のパンフレットや地図が完備され、観光案内所も年中無休・夜 8 時まで開いており、外国人観光客に対しても非常に配慮されていることが分かりました。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

小樽運河の事例は、長浜市が誇る歴史的資源を活かしながら夜間の魅力を向上させる上で大いに参考になります。夜間のライトアップや観光案内の多言語対応、案内所の運営時間の拡充など、ハード・ソフト両面から整備を進めることで、観光客の滞在時間の延長やリピーター獲得につながります。

特に、小樽のように「かつて価値が低かった資源を磨き上げて価値を創出する」という視点は重要であり、長浜市でも歴史的な建物やエリアの魅力を見直し、夜間の賑わい創出に活かしていきたいと考えます。

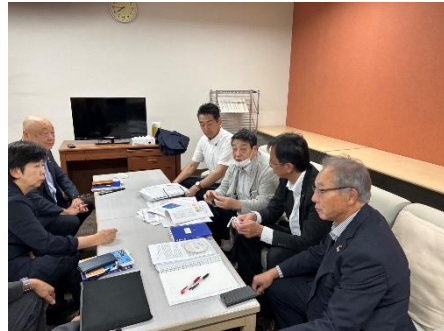
4-②調査内容感想等

②北海道札幌市北海道がんセンター・放射線治療の現状と展望について

・視察目的

がん治療は、外科的治療、内科的治療、放射線治療の三本柱が中心であるが、日本では放射線治療へのアクセスが難しい現状があります。放射線治療は患者にとって負担が少なく、切除せずに治療でき、副作用も少なく、かつ費用も比較的安価で済む優れた治療法です。しかし、医療機関側にとっては設備投資が高額であり収益性が低いいため、積極的に行われにくい実態があります。

長浜市のがん治療の現状や将来のあり方を検討するため、放射線治療の先駆的な取組を行っている北海道がんセンターを訪問し、放射線治療の世界的権威である西尾正道名誉院長から直接お話を伺うことで、今後の施策に生かすことを目的としました。



・視察内容

北海道がんセンターでは、院内に滋賀県全体に匹敵する人数の放射線治療医が配置されており、それは長年にわたり西尾先生が取り組まれてきた成果であると思えます。

放射線治療は、切らずに治療できるため患者の負担が少なく、治療後の生活の質(QOL)も高く保てる点が特徴です。実際に私自身も、2007年に西尾先生のもとで舌がんの放射線治療(小線源治療)を受け、現在に至るまで構音障害、味覚障害、唾液分泌障害といった後遺症もなく、正常な生活が送れています。

一方、放射線治療の課題としては、装置や施設の整備に高額な投資が必要であり、収益性が低いため病院経営的には積極的に推進しにくい現状が指摘されました。しかし、患者にとっては最も優しい治療法のひとつであり、もっと広く認知され、選択されるべき治療法であると思えます。



頸部リンパ節の触診(西尾先生)

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

市立長浜病院には現在、放射線科の治療医は1名のみですが、地域がん診療連携拠点病院として、放射線治療医の増員や体制の充実が求められます。がん患者にとって負担の少ない治療法を選択できるようにすることは、地域医療の充実と患者満足度の向上につながります。

また、放射線治療の有用性や安全性について、市民への啓発も必要です。私自身の経験を踏まえても、治療法としての優しさや効果の高さを周知していくことが大切だと感じます。

今回の視察を契機に、市立長浜病院が放射線治療においても地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たせるよう、医師確保や設備の整備をさらに進め、患者が安心して治療を選択できる環境整備を望むものです。

4-③調査内容感想等

③北海道函館市縄文文化交流センター・博物館の展示と運営について

・視察目的

北海道・北東北の縄文遺跡群は、2021年7月27日に第44回世界遺産委員会拡大大会において世界文化遺産への登録が決定され、国内外から注目を集めています。その中心の一つである函館市縄文文化交流センターを視察し、貴重な縄文文化の価値を伝える展示内容や、施設の整備状況、費用対効果の考え方について学び、今後整備予定の(仮称)長浜戦国ミュージアムの参考とすることを目的としました。



・視察内容

函館市縄文文化交流センターは、北海道・北東北に色濃く残る自然環境の中で育まれた縄文文化を紹介する施設であり、内部は以下のように充実した構成となっていました。



展示室1・2(縄文文化展示室):縄文時代の暮らしを実感できる資料やジオラマを展示。

展示室3(縄文の精神):精神文化や信仰の側面に焦点を当てた展示。

体験学習室:縄文文化を体験できる学習プログラムを提供。

特に国宝の土偶が展示されていることは大きな魅力であり、展示の質・量ともに非常に高いレベルにありました。

また、施設の敷地は東京ドーム 7 個分に及び、その広大さと保存状態の良さにも驚かされました。縄文文化が 1 万年以上にわたり発展し、複雑な精神文化を形成していた歴史を、展示を通じて深く学ぶことができました。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

長浜市でも、今後約 13 億円を投じて(仮称)長浜戦国ミュージアムの建設を予定しています。函館市縄文文化交流センターの事例から学べる点は以下の通りです。

①展示内容は単なる物品展示だけでなく、暮らしや精神文化を体験的・多面的に学べる構成とすることで、来館者の満足度を高める。

②国宝や重要文化財など、地域が誇る文化遺産の価値をしっかりと伝えられる工夫をする。

敷地や規模に見合った運営を行い、費用対効果を十分検証することが重要である。

今回の視察で得られた知見を活かし、長浜市の歴史・文化資源を有効に活用しながら、投資に見合った成果が得られるよう、整備計画をさらに精査していく必要があると強く感じました。



4-④調査内容感想等

④北海道函館市役所・観光を通じた地域経済の活性化と持続可能な体制づくりについて

・視察目的

日本全体で進行する人口減少・少子高齢化は、地域経済や産業の担い手不足といった課題を深刻化させています。函館市も同様に人口減少が進んでおり、産業の活力低下が懸念される一方で、交流人口・関係人口の拡大によって地域経済を支える取組が進められています。



本視察では、函館市が観光を通じて地域経済を活性化する取組の現状と課題、また持続可能な観光のあり方について学び、長浜市の観光施策に活かすことを目的とし

ました。

・視察内容

函館市では 2024 年の観光客数が約 602 万人余りと過去最高を記録し、前年同期比 13.9%増、2016 年の北海道新幹線開業時を超える水準となっています。外国人宿泊客数も 56 万人余りと過去最高で、特に台湾からの観光客が全体の約 40.5%を占め、コロナ禍前後で比較すると米国人宿泊客の比率も 182.4%と大幅に増加しています。円安や国際線直行便の就航が主な要因と見られ、クルーズ船の寄港回数も過去最多を更新予定です。

函館市は 2024 年度から 2028 年度の「函館市観光基本計画」を策定し、基本理念に「観光の価値を高め、函館を照らす」を掲げ、質の高い観光による観光消費額の向上や、観光の繁閑差の是正、人材の育成、市民の理解促進などを基本方針としています。

さらに、5年後の目指す姿として、観光消費の増加による観光業の活性化と、関連産業や市民生活全体への経済波及効果を意識した地域づくりを推進している点が印象的でした。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

長浜市においても、歴史文化や自然景観を活かした観光は地域経済の重要な柱です。函館市のように、交流人口・関係人口の拡大を通じて地域全体の経済循環を生み出す視点は、今後の観光政策においても大いに参考になります。

一方で、観光客が多すぎることによってリピーターが不快な思いをし、再訪しないとといった事態を防ぐため、適切な受け入れ体制や観光の質の向上に配慮した仕組みが必要です。

今回の視察を契機に、観光産業の持続可能な発展と地域経済の好循環の両立を目指し、長浜市にふさわしい観光施策の検討を進めてまいります。

